



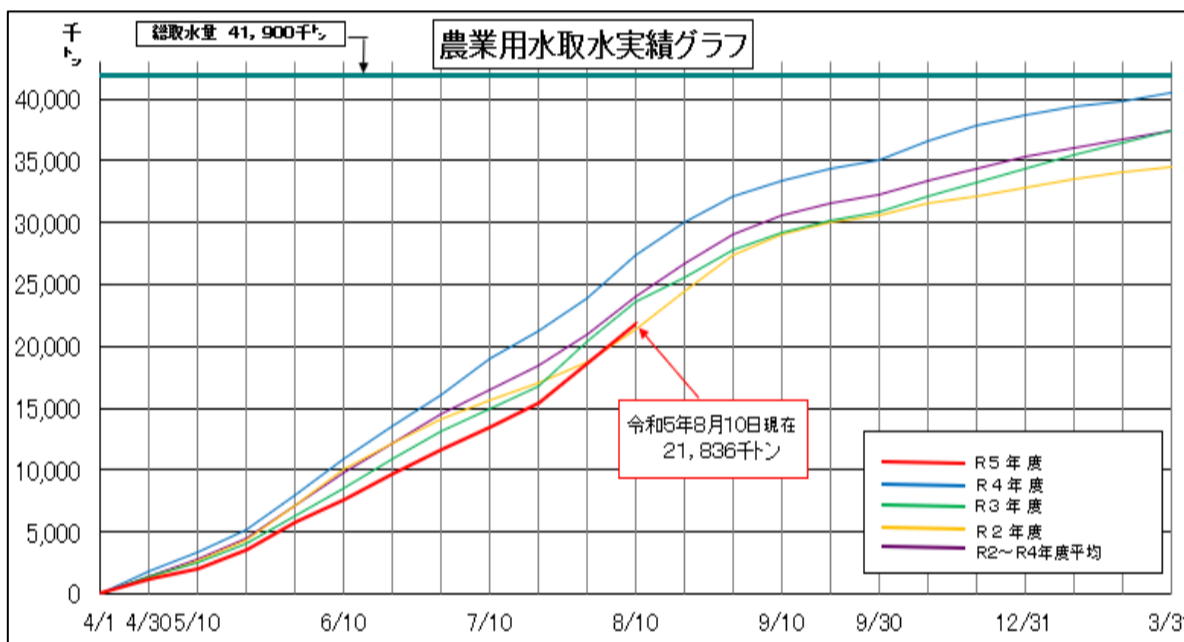
岩屋ダム利水貯水量 6,190万トン（貯水率100%）

農業用水取水量 2,184万トン（取水率 52%）（ともに8月10日現在）

夏の風物詩ともいえるお盆には、全国各地で先祖の霊を迎え入れ、また送り出すための盆踊りや夏祭りが開催されます。このお盆の時期は、東京を中心とした一部の地域が新盆（7月盆）で行われ、その他の大多数の地域では旧盆（8月盆）で行われているようです。こうしたお盆の時期のずれが定着した理由は諸説あるようですが、農業が盛んな地方の7月は農繁期で忙しいため、1ヶ月遅らせてお盆を行うようになったというのも、その一説のようです。

お盆の時期を迎えると、一年で最も暑さの厳しい「大暑」も終わり、少しずつ暑さが和らいでくる時期となるはずですが、近年は厳しい残暑が続く天候や、不安定な気象状況による大雨や台風による被害が心配され、なかなか気の休まらない時期でもあります。受益者の皆様には、早期米の収穫時期を控えて多忙な日々をお過ごしのことと思いますが、体調管理等には十分ご留意いただき、これからの時期の作業に向けた準備を整えていただければと思います。

水源地である岩屋ダムの利水貯水量は、8月10日現在で6,190万トンと満水状態を保っています。東海地方の8月の天候の見通しは、平年と同様に晴れの日が多く、気温は平年より高くなる見込みとのことです。この時期は普通植えの出穂



期を迎え多くの水を使う時期でもありますので、今後の降雨状況や貯水状況に注視していくことが必要です。

農業用水取水量は8月10日現在、2,184万トン（取水率52%）で、過去3ケ年の平均取水量より223万トン少なくなっています。一方、右岸用水における農水の年間総取水量は4,190万トンと定められています。

本年度の水稻用水使用期間もあとわずかになりましたが、受益者の皆様には、引き続き河川、ため池等の地区内水源を最優先に利用していただくと共に、掛け流しはしないよう節水にご協力をお願いします。

水資源機構 中部支社へ施設機能保全に関する要望書を提出しました

8月9日（水）に、藤井理事長以下各単区の全理事長が出席し、独立行政法人水資源機構中部支社に対して、「木曽川右岸用水施設整備機能保全に関する要望書」を提出しました。木曽川右岸施設については、緊急改築事業の実施により漏水件数は大幅に減少したものの、揚水機場や未改築のPC管などの老朽化に伴う事故等の発生が懸念される状況です。こうした現状を理解いただき、農業用水の安定供給と安全な施設管理を図るため、以下の要望内容をお伝えするとともに、意見交換を行いました。



- ① 経年劣化による突発的な事故の懸念が高まっている揚水機場の設備について、機能保全計画に基づく具体的対策の実施
- ② 未改築区間のPC管等について、機能保全調査及び保全計画の見直しを行い、事業化に向けた緊密な連絡調整
- ③ 幹線導水路等のトンネル背面空洞調査の未実施区間について、危険箇所との把握と適切な対策の実施

羽生用水路（富加町地内）で漏水事故が発生しました

8月2日（水）深夜に、羽生用水路（富加町上羽生地内）においてPC管Φ600mmからの漏水事故が発生しました。農業用水が必要な時期ではありましたが、緊急に断水をさせせていただき、補修工事を行いました。

事故対応にご協力いただきました地元土地改良区や消防団の皆様、並びに関係受益者の皆様のご理解、ご協力に対して心から感謝申し上げます。また、出水により住宅敷地や農地等への土砂の流入、冠水等でご迷惑をお掛けした近隣住民の皆様には、心からお詫びを申し上げます。

なお、補修工事は8月7日に完了し、同日、通水も完了しました。

